



舞鶴市 姉妹都市提携50周年 ナホトカ市 先人からの友情 さらに強固に



ナホトカ市代表団が来訪

さまざまな分野で交流を

ナホトカ市代表団(団長はプシヨンを開催。記念式典
オレグ・コリヤティン・ナには、約100人の関係者
ホトカ市長、7人)が6月
20日、23日、舞鶴市に
一行は、20日に多々見市長
をはじめ、舞鶴市議会、舞
鶴商工会議所を表彰。21
日には、自然文化園において
ユズリハの記念植樹を行い
ました。
その後、市内のホテルに
おいて記念式典、祝賀レセ
ンターにおいて市民交流
会も開催され、野球やクラ
ウド・ゴルフを通じての

舞鶴市とナホトカ市(ロシア)が姉妹都市を提携して、今年の6月21日で50周年を迎えました。6月20日、23日、姉妹都市提携50周年を記念してナホトカ市代表団が来訪。今号では、記念行事の様子やこれまでさまざまな交流を通じてナホトカ市との友情を育んできた人たちの思い、50年間の交流の歴史などを紹介します。

での実りある交流の更なる発展を願っています」とあいさつしました。また、両市の変わらない友情と今後の交流促進を固く誓い合う「共同宣言」に両市長が署名しました。祝賀レセプションでは、ロシア出身のピアノ奏者・ユルカーノヴァ、ナターリアさんや海上自衛隊舞鶴音楽隊による演奏で歓迎されたほか、記念品の交換が行われました。

舞鶴市は、山や海など美しい自然のほか、日本の伝統や文化などが市民の人たちの努力によって保存されています。
ナホトカ市代表団員で市長秘書のイリーナ・シニルヒナさん

インタビュー

港を生きかしてさらなる発展を

工場を見学。23日には、五老ヶ岳公園にあるナホトカ友好の碑を見学した後、次の目的地である京都市に向けて出発されました。



記念式典で舞鶴市・ナホトカ市姉妹都市提携50周年共同宣言に署名し、握手を交わす多々見市長(右)とコリヤティン市長(左)(市内のホテル)



ナホトカ友好の碑の前で記念写真(五老ヶ岳公園)

共同宣言(抜粋)
① 姉妹都市締結時の合言葉「日本海を平和と友情の海に」を基礎として、両市の友好的絆をより一層強固なものとし、さまざまな分野で交流を継続、発展させる。
② 両市の特徴である港湾施設を活用した交流の拡大に努める。
③ 両市の交流において市民が参画する機会を拡大する



インタビュー わたしたちの思い出

舞鶴市から多くの方がナホトカ市を訪問し、長年にわたりさまざまな交流を重ねてきました。当時の様子や思い出について話を聞きました。

海外での経験 将来に役立てて



▲坂本武さん(下東)

ナホトカ市を訪問したのは40年前のことですが、その時の様子が今でもスナップ写真のようによみがえってきます。ナホトカ市へ向かう貨物船の中で味わった羊の肉のステーキがとてもおいしかったこと、身振り手振りでナホトカ市の子供たちと交流できたこと、晩

昭和46年 第1回少年使節団員(由良川中3年(当時))

スポーツとくみ通語(1)



▲波多野将秀さん(今田)

平成11年 少年野球代表団監督

ナホトカ市を訪問した子供たちは、初めての海外ということもあり、はじめは緊張している様子でしたが、試合では元気に伸び伸びとプレーをしていました。交流戦の結果は2試合とも舞鶴少年野球団が大勝しましたが、ボールを追う目の輝きはみんな同じでした。試合の後はずっと語り合った様子が、言葉の壁はあってもスポーツという共通語があれば一つになれる素晴らしさを実感しました。

今後の予定

姉妹都市提携50周年を記念して、今後もさまざまな交流を予定しています。

- 日程などは次のとおり。
- ◆舞鶴市少年野球団の訪問：8月21日(日)～25日(木)
- ◆舞鶴市代表団の訪問：10月9日(日)～15日(土)
- ◆ナホトカ市文化交流団の来訪：10月30日(日)～11月6日(日)

受け入れる気持ち大切に



▲網島彩さん(福知山 成美高3年)

ナホトカ市との試合は、フルセットまでもつれる接戦でしたが、勝つことができました。ナホトカ市の子どもにもう一度会いたいです。

少年野球団が初練習

8月21日～25日、ナホトカ市を訪問する舞鶴市少年野球団が、6月26日、西運



守備練習を行う舞鶴市少年野球団

動広場で初練習を行いました。同少年野球団は、市内各地区の少年野球クラブの代表13人で構成。今後、数回の練習を重ね、ナホトカ市を訪問し、同市の少年野球チームと試合を行います。キャプテンの谷勝くん(池内少年野球クラブ)は、「はじめての海外ということで不安もあるけれど、ナホトカ市のチームとの試合は楽しみにしています。試合をするからには勝ちたいです」と抱負を述べていました。

積み重ねた50年の歩み

- 〔昭和36年〕舞鶴市・ナホトカ市姉妹都市提携が実現
- 〔昭和39年〕舞鶴市親善使節団訪問、翌年ナホトカ市親善使節団来訪◆第1回舞鶴・ナホトカ姉妹都市通信体育大会を開催。以後毎年開催
- 〔昭和41年〕舞鶴市婦人使節団訪問、翌年ナホトカ市婦人使節団来訪
- 〔昭和43年〕舞鶴市青年使節団訪問、翌年ナホトカ市青年使節団来訪
- 〔昭和44年〕舞鶴市教員使節団訪問
- 〔昭和46年〕第1回少年使節団訪問。平成2年まで17回訪問
- 〔昭和48年〕舞鶴市医師使節団訪問。翌年ナホトカ市医師使節団来訪
- 〔昭和53年〕舞鶴市民日ソ親善の船(200人)訪問◆五老ヶ岳公園にナホトカ友好の碑を建立
- 〔昭和55年〕いけば花使節団訪問
- 〔昭和56年〕提携20周年で京都府・舞鶴市親善使節団訪問◆「ナホトカ市民の船」(202人)来訪
- 〔昭和58年〕「ナホトカ市民の船」(194人)来訪
- 〔昭和59年〕舞鶴市幼児教育使節団訪問
- 〔昭和60年〕「ナホトカ市民の船」(296人)来訪
- 〔昭和61年〕「提携25周年訪ソの旅」訪問団訪問◆市が野球用具一式を贈呈。以後野球コーチ訪問団訪問(昭和62年、平成9年)、ナホトカ市野球研究訪問団来訪(平成元年)、ナホトカ市少年野球訪問団来訪(平成6年)、市民が野球用具約1,900点を寄贈(平成9年)、舞鶴市少年野球代表団が訪問(平成11年)
- 〔平成2年〕提携35周年で両市が友好訪問団を相互派遣
- 〔平成13年〕提携40周年で舞鶴市訪問団訪問◆ナホトカ市少女ソフトボール訪問団来訪。翌年舞鶴市少女ソフトボール訪問団訪問
- 〔平成15年〕ナホトカ市少年バレーボール訪問団訪問
- 〔平成17年〕ナホトカ市少年バレーボール訪問団来訪◆ナホトカ市経済視察団(環境保護研修)来訪
- 〔平成18年〕提携45周年で両市が訪問団を相互派遣◆舞鶴グラウンド・ゴルフ協会が用具一式を贈呈
- 〔平成19年〕舞鶴市少女バレーボール訪問団訪問
- 〔昭和39年〕舞鶴市親善使節団訪問、翌年ナホトカ市親善使節団来訪◆第1回舞鶴・ナホトカ姉妹都市通信体育大会を開催。以後毎年開催
- 〔昭和41年〕舞鶴市婦人使節団訪問、翌年ナホトカ市婦人使節団来訪
- 〔昭和43年〕舞鶴市青年使節団訪問、翌年ナホトカ市青年使節団来訪
- 〔昭和44年〕舞鶴市教員使節団訪問
- 〔昭和46年〕第1回少年使節団訪問。平成2年まで17回訪問
- 〔昭和48年〕舞鶴市医師使節団訪問。翌年ナホトカ市医師使節団来訪
- 〔昭和53年〕舞鶴市民日ソ親善の船(200人)訪問◆五老ヶ岳公園にナホトカ友好の碑を建立
- 〔昭和55年〕いけば花使節団訪問
- 〔昭和56年〕提携20周年で京都府・舞鶴市親善使節団訪問◆「ナホトカ市民の船」(202人)来訪
- 〔昭和58年〕「ナホトカ市民の船」(194人)来訪
- 〔昭和59年〕舞鶴市幼児教育使節団訪問
- 〔昭和60年〕「ナホトカ市民の船」(296人)来訪
- 〔昭和61年〕「提携25周年訪ソの旅」訪問団訪問◆市が野球用具一式を贈呈。以後野球コーチ訪問団訪問(昭和62年、平成9年)、ナホトカ市野球研究訪問団来訪(平成元年)、ナホトカ市少年野球訪問団来訪(平成6年)、市民が野球用具約1,900点を寄贈(平成9年)、舞鶴市少年野球代表団が訪問(平成11年)
- 〔平成2年〕提携35周年で両市が友好訪問団を相互派遣
- 〔平成13年〕提携40周年で舞鶴市訪問団訪問◆ナホトカ市少女ソフトボール訪問団来訪。翌年舞鶴市少女ソフトボール訪問団訪問
- 〔平成15年〕ナホトカ市少年バレーボール訪問団訪問
- 〔平成17年〕ナホトカ市少年バレーボール訪問団来訪◆ナホトカ市経済視察団(環境保護研修)来訪
- 〔平成18年〕提携45周年で両市が訪問団を相互派遣◆舞鶴グラウンド・ゴルフ協会が用具一式を贈呈
- 〔平成19年〕舞鶴市少女バレーボール訪問団訪問

ナホトカ市

位置図

舞鶴市は、ロシア沿海地方の南東部(東経133度、北緯43度)。舞鶴市からの距離は約732キロメートル。

◆面積 約360平方キロメートル

◆人口 約17万人(平成22年現在)

◆概況 舞鶴市と同様に天然の良港を有する国際港湾都市。市政の施行は1950年(昭和25年)

◆姉妹都市(日本のみ) 舞鶴市、小樽市、敦賀市

姉妹都市提携の経緯

1956年(昭和31年)に「日ソ共同宣言」が調印され、日本とソビエト連邦(当時)は国交を回復しました。これにより両国の関係は新たな時代を迎え、経済面においても対岸諸国との貿易が大きく注目されてきました。

このような中、平和な港湾工業都市を目指す舞鶴市では、戦後の引揚船の出港地と寄港地という関係があったことから、日本海を挟んで対岸のナホトカ市と貿易を通じて親善を深め、日ソ両国の友好強化に寄しようという機運が高まってきました。

その後、同年に舞鶴市議会においてナホトカ市との友好関係の拡大を期待する旨の決議が行われ、1961年(昭和36年)6月に関係者の協力を得て、ドウボフカ・ナホトカ市長を舞鶴市に迎え、日本とソビエト連邦の間では初めてとなる姉妹都市提携を実現しました。